

3. 目標・方針

(1) 目標

四季折々の美しい自然にとけ込む札幌定山溪

～めぐりたくなる湯のまちへ～

定山溪地区は、支笏洞爺国立公園内に位置し、自然豊かな山々に囲まれた美しい渓谷を有する温泉街であり、札幌の奥座敷として栄えてきました。地区内では、四季折々の美しい自然の表情を感じることができるとともに、カヌーやラフティングなど自然を生かしたアクティビティも楽しむことができます。このような自然豊かな温泉街として、定山溪には札幌市民だけでなく国内外より多くの観光客が訪れています。

これらの特徴を生かし、自然と共生した様々な体験が可能な宿泊・滞在型の観光拠点として当地区の魅力をもっと高めるためには、渓谷に代表される豊かな自然環境や温泉、アクティビティといった今ある資源を最大限に活用しつつ、より多くの人々に地区内の魅力を知ってもらえるよう、地域の方々はもとより来訪者等が地区内を周遊したくなるような環境を整えることが重要であり、そのためには、この地区の特徴を生かした魅力的な街並みを形成することが不可欠です。

住む人も訪れる人も、より定山溪地区の魅力を感じる景観形成を目指します。

(2) 方針

方針 1

四季折々に変化する
国立公園の豊かな自然を
大切にする景観まちづくり



方針 2

歩いて楽しい賑わいと
おもてなしを感じる
景観まちづくり



方針 3

渓谷美を守り生かす
景観まちづくり



方針 4

札幌の奥座敷として
栄えてきた湯のまちの
成り立ちを継承する
景観まちづくり



■ 方針 1 四季折々に変化する国立公園の豊かな自然を大切にする景観まちづくり

支笏洞爺国立公園内に位置する本地区は、札幌岳や余市岳など標高 1,000m 級の山々に囲まれており、四季折々の自然の変化や定山溪特有の生物・山野草を間近に楽しむことができます。これらの豊かな自然環境は、本地区の景観を形成する最も重要な要素であるといえます。

本地区のかけがえのない財産であるこの豊かな自然を、守り生かす景観まちづくりを目指します。

■ 方針 2 歩いて楽しい賑わいとおもてなしを感じる景観まちづくり

古くから温泉街として栄えてきた本地区において、温泉街をそぞろ歩く人々の姿は、景観上なくてはならない要素であるといえます。特に、定山溪温泉への玄関口となる国道 230 号や温泉街の中心を通る定山溪中央線などは温泉街の顔となる主要な通りであり、これらの沿道において賑わいやおもてなしを感じる雰囲気醸成することは、そぞろ歩きを楽しむ人々の増加にもつながり、温泉街としての魅力を高める上で重要です。

誰もが歩いて楽しめるよう、賑わいとおもてなしを感じる温泉街らしい景観まちづくりを目指します。

■ 方針 3 溪谷美を守り生かす景観まちづくり

本地区の中心を流れる豊平川の溪谷沿いは、山々などの豊かな自然を背景に、その周囲に宿泊施設等が連なることで独特の美しい景観が形成されています。特に、四季折々に変化する溪谷美を堪能することができる豊平川に架かる橋からの眺めは、地域の皆さんも景観上重要であると感じています。

定山溪の象徴である溪谷美をいつまでも守り生かす景観まちづくりを目指します。

■ 方針 4 札幌の奥座敷として栄えてきた湯のまちの成り立ちを継承する景観まちづくり

北海道の温泉地として有数の規模を誇る定山溪温泉は、慶応 2 年（1866 年）に開湯し、かつては定山溪鉄道が走るなど札幌の奥座敷として栄え、温泉街の街並みが形成されてきました。また、地区内には明治初期に開通した本願寺道路（現国道 230 号）や、定山に所縁のある定山寺、定山溪神社といった社寺など、温泉街としての歴史を今なお感じることでできる資源が残されています。このような温泉街としての成り立ちを継承することは、定山溪らしい景観を形成する上で重要です。

かねてから札幌の奥座敷として栄えてきた湯のまちの成り立ちを大切に、継承する景観まちづくりを目指します。